

第70回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成22年4月～6月期

平成22年4～6月期の国内景気をみると、政策効果等により個人消費は底堅く推移しているが、景気の牽引役である輸出は減速傾向にあり、円高、株安などもあいまって景気回復に一服感がでてきている。

トラック運送業界では、一般貨物では急回復を示した前回の水準をほぼ維持したが、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物では指標の悪化がみられた。最近の原油高により燃料コストが上昇してきており、営業利益の悪化が目立つ。業界の景況感の判断指標は▲50で、前回（▲46）から小幅悪化、4四半期連続の改善はストップした。

平成22年7～9月期の見通しについても、判断指標は▲54と4ポイントの悪化が見込まれており、先行き不安は拭かれていない。

平成22年7月30日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成22年4月～6月期）の状況

(1) 概況

平成22年4～6月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は50%（前回49%）、「好転」とした事業者は11%（前回13%）で、判断指標は▲50となり、前回から4ポイント悪化した（前回▲46）。指標の悪化は小幅だが、4四半期続いた顕著な改善傾向はストップした。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物で指標の悪化が目立つ。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が47%、「増加」とする事業者が23%で、判断指標は▲38となり、前回（▲31）から7ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が20%で、判断指標は▲44となり、前回（▲30）から14ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が15%で、判断指標は▲48となり、前回（▲36）から12ポイント悪化した。

宅配以外の特積み貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が38%、「増加」とする事業者が23%で、判断指標は▲23となり、前回（▲13）から10ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が21%で、判断指標は▲25となり、前回（▲20）から5ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が46%、「増加」とする事業者が13%で、判断指標は▲42となり、前回（▲22）から20ポイント悪化した。

(3) 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲22となり、前回（▲23）とほぼ同水準であった。営業収入は「減少」とする事業者が45%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲31となり、前回（▲29）から2ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が47%、「増加」とする事業者が15%で、判断指標は▲41となり、前回（▲34）から7ポイント悪化した。

(4) 運賃水準

運賃水準は弱含んでいる。宅配貨物は▲32（前回▲27）、宅配以外の特積み貨物は▲36（前回▲16）、一般貨物は▲28（前回▲25）となり、再び下落傾向が窺える。

(5) 実働率等

実働率は▲23（前回▲16）、実車率は▲23（前回▲14）で、ともにやや水準を下げている。

雇用状況は▲13（前回▲11）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用状況は▲18（前回▲18）でほぼ前年並み、所定外労働時間は▲23（前回▲15）でやや減少傾向にある。

保有車両台数は▲23（前回▲24）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲2

項 目		概 況	
宅 配	輸送数量	<p>前回 2 (-13) 今回 2 (-23) 見通 0 (-30)</p>	<p>・前回より水準を下げ、やや減少となった。地域別では、九州は大幅減少。中国、関東、中部、北陸信越では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は、やや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。</p>
	営業収入 (売上高)	<p>前回 2 (-20) 今回 2 (-25) 見通 0 (-33)</p>	<p>・前回よりやや悪化し、やや減少となった。地域別では、九州は大幅減少。中国、関東、中部、北陸信越では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は、やや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。</p>
特 積 貨 物	営業利益	<p>前回 1 (-22) 今回 1 (-42) 見通 0 (-45)</p>	<p>・前回より悪化した。地域別では、九州は大幅減少。中部では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少の見込み。</p>
	運賃・料金の水準	<p>前回 2 (-16) 今回 0 (-36) 見通 0 (-37)</p>	<p>・前回より悪化し、やや下落となった。地域別では、東北は下落。北海道、四国、関東は横ばいとなっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落の見込み。</p>

凡例

	大幅に 増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや 増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい	0点
	やや 減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に 減少・低下・悪化・人手過	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1~+2、横ばい0、減少・悪化-1~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = a₁+a₂+a₃+a₄+a₅ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = { (+2×a₁) + (+1×a₂) + (0×a₃) + (-1×a₄) + (-2×a₅) } ÷ A × 100

4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
輸送数量 (全 体)	<p>前回 3 21 36 32 8 (-23)</p> <p>今回 2 20 40 31 8 (-22)</p> <p>見通 1 15 47 30 7 (-28)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と同様にやや減少であった。地域別では、東北、中部、四国、北陸信越は減少を免れた。九州は相対的に厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的に良く、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
営業収入 (売上高)	<p>前回 2 20 34 34 10 (-29)</p> <p>今回 2 20 34 35 10 (-31)</p> <p>見通 0 14 44 32 10 (-38)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と同様にやや減少であった。地域別では、九州は減少、北陸信越は減少を免れた。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的に良く、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
営業利益	<p>前回 2 17 38 33 11 (-34)</p> <p>今回 1 14 39 36 11 (-41)</p> <p>見通 0 10 45 34 11 (-46)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回よりやや悪化した。地域別では、九州は減少となっている。規模別では、中・小規模事業者の水準が低い。品目別では、機械関連貨物は相対的によいが消費関連貨物の水準は低い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
運賃・料金の水準	<p>前回 1 3 72 20 4 (-25)</p> <p>今回 0 3 70 22 4 (-28)</p> <p>見通 0 3 70 22 5 (-28)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と同様にやや下落であった。地域別では四国、北海道は横ばいであった。規模別、品目別の差は小さく、総じてやや下落となっている。 ・今後も今回とほぼ同様に、やや下落の見込み。

